

## JFE商事ブリキセンター

# 全レベラーをクリーン化

ブリキコイルセンターのJFE商事ブリキセンター（本社・大阪府大東市、社長・清水浩史氏）は、保有する3ラインのレベラーすべてを「クリーン化」（クリーンブース内に設置）する。今月にはブースを採用した新工場が本稼働。来年1月には第2事業所のレベラーラインにもブースを設ける予定。これに

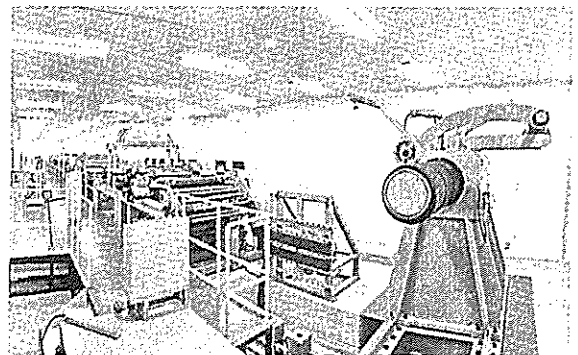
より、同社は「グリーン」など品質の良さをPRすることで、他社との差別化を図っていく。

同社はレベラー剪断から印刷までを一貫で対応するJFEグループの西日本中核ブリキ販売拠点。同社の加工拠点は大阪市に2カ所、新工場となる第1事業所、および塗装ラインのある第2事業

所（日本社工場）がある。月産規模は約3千ト。歩留まり向上に貢献するスクロールカッターにも対応できるブリキ専門のCCだ。

第1事業所にはブース内にレベラーとラインを設置しただけでなく、在庫製品ヤードにおいてもトラック出入口の二重扉化を実施。さらに工場全体に窓を設けず場内を除湿・気

流管理・陽圧化することでほこりの侵入防止や湿気対策を施した。同事業所のレベラー1ラインは新設。「マグネットパイラー」を採用しており、同装置により、パイラー部のラインスピードを加工レベラー部に比べ半分の程度にできる。これによりシートがパイラーに入る際の衝撃負担が軽減されるだけでなく、



クリーンブース内の新レベラー  
イル対応）  
「梱包工程の共有化」など生産性向上にも努めている。  
また、工場屋根は太陽光発電を行うハウスメーカーに賃貸するとともに、太陽光パネルによる外断熱効果で真夏時の場内温度抑制に役立っている。

く、パイラー部のエアの擦れを防ぎ表面傷がつきにくい工夫をしている。このほか、表面検査装置も導入しており、これにより不良品を自動でリシエク

トすることができ、清水社長は「品質にこだわったレベラーだ。ブリキだけでなく、ノンオイルかつ表面や端面の精度が要求される他素材も手掛けられ

ば」と話す。このほか、新工場は品質だけでなく、「構内物流の単純化」大コ